

Sat. Nov 7, 2020

D会場

スポンサードセッション|ライブ

スポンサードセッション1

座長:渡邊 裕(北海道大学 大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室)

1:00 PM - 1:40 PM D会場

[SL1] 歯科と栄養ケア・ステーションとの連携(クリニコのスポンサードセッション)

○田中 弥生¹ (1. 関東学院大学 栄養学部 管理栄養学科 教授)

スポンサードセッション|ライブ

スポンサードセッション2

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

2:00 PM - 2:40 PM D会場

[SO4] カムカム健康プログラムー地域で取り組むフレイル・オーラルフレイル予防！ー

○松尾 浩一郎¹、泉 綾子²、小川 康一²、貴島 真佐子³、糸田 昌隆⁴、金澤 学⁵、増田 裕次⁶、飯島 勝矢⁷ (1. 藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座、2. (株)フードケア 開発部、3. わかくさ竜間リハビリテーション病院 歯科、4. 大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科、5. 東京医科歯科大学医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野、6. 松本歯科大学総合歯科医学研究所、7. 東京大学高齢社会総合研究機構)

スポンサードセッション | ライブ

スポンサードセッション1

座長:渡邊 裕(北海道大学 大学院歯学研究院 口腔健康科学分野 高齢者歯科学教室)

Sat. Nov 7, 2020 1:00 PM - 1:40 PM D会場

共催: 株式会社クリニコ

ライブ講演はこちら

パスコード: 134630

[SL1] 歯科と栄養ケア・ステーションとの連携(クリニコのスポンサードセッション)

○田中 弥生¹ (1. 関東学院大学 栄養学部 管理栄養学科 教授)

(Sat. Nov 7, 2020 1:00 PM - 1:40 PM D会場)

[SL1] 歯科と栄養ケア・ステーションとの連携(クリニコのスポンサードセッション)

○田中 弥生¹ (1. 関東学院大学 栄養学部 管理栄養学科 教授)

【略歴】

最終学歴

平成28年3月：

筑波大学大学院 人間総合科学研究科博士課程 スポーツ医学専攻修了 博士(スポーツ医学)

職歴

昭和56年4月：

医療法人新都市医療研究会「君津会」南大和病院栄養科 入職

平成20年4月：

駒沢女子短期大学 食物栄養科 准教授

平成20年4月：

医療法人新都市医療研究会「君津会」南大和病院 栄養科 顧問

平成26年4月：

駒沢女子大学 人間健康学部健康栄養学科 教授

平成30年4月：

関東学院大学 栄養学部管理栄養学科 教授

現在に至る

歯・口の機能虚弱は、食環境の悪化から始まる筋肉減少を経て最終的に生活機能障害に至る構造と研究で示されており歯科口腔機能の軽微な機能低下や食の偏りも認められている。活動量、精神、心理状態、歯・口腔機能、・栄養状態、身体機能など多岐にわたる健康分野に関与することが明らかになってきた。これらは歯科に関わる栄養管理はオーラルケアを十分に整備することで栄養管理の維持及び悪化予防に取り組むことができる。

また、近年、介護予防による包括的な医療・介護が叫ばれるなか、療養者が「低栄養状態」に陥らないようにする為、疾患を早期に発見し、予防による「重症化予防」が推進されている。特に栄養管理は、居宅療養者を取り巻く家族及び管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士などとの職種間の栄養の知識、認識、情報の共有を必要としている。

そのうち栄養管理を担う栄養ケア・ステーション(以下栄養CS)は、管理栄養士・栄養士の栄養ケア活動の地域拠点とすることによって地域住民のアウトリーチとアクセスを抜本的に拡充し、栄養ケアの支援と指導を受けることができる地域社会づくりを目指している。

栄養改善は、本人（および介護者）・医療機関(歯科を含む)・介護予防施設・地域包括支援センター等が栄養管理情報を共有化し適切にアプローチすることが重要である。しかし、地域連携パスなどによる医療・介護関係者同士の情報の共有化はしているものの栄養管理による居宅療養者や家族が認識するために共有化されたものは少なく、低栄養状態が見逃されることも多い。栄養ケアプロセスによる継続した栄養管理を実施することにより入院を繰り返す低栄養状態の居宅療養者数は減少すると言われている。また最近では、歯科との連携で介護福祉施設では口腔及び栄養を繋ぐ栄養ケア・マネジメントによるミールラウンドが進められており、地域でもその必要性が高くなっている。その手段の一つとして地域クリニカルパスやお薬手帳などが活用されている。中でも、地域の医療や福祉との連携を深めて、地域住民の食生活及び栄養障害の改善、疾病の再発予防や疾病の予防し、情報集約の拠点として顔の見える管理栄養士・栄養士と歯科が連携することで長期に渡る継続的な地域の栄養ケア

の関与が必要であるが、歯科内で栄養評価しそのケアに結び付く人的資源はまだ不足している。今回は日本栄養士会及び都道府県栄養士会が認定する栄養 CSについて解説し、事例として歯科と認定栄養 CSが連携した栄養管理の実際についてお話したい。

スポンサードセッション | ライブ

スポンサードセッション2

座長:水口 俊介(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野)

Sat. Nov 7, 2020 2:00 PM - 2:40 PM D会場

共催: JST 日本・スウェーデン共同研究「自立高齢者を増やすための食品開発」チーム

ライブ講演はこちら

[SO4] カムカム健康プログラムー地域で取り組むフレイル・オーラルフレイル予防！ー

○松尾 浩一郎¹、泉 綾子²、小川 康一²、貴島 真佐子³、糸田 昌隆⁴、金澤 学⁵、増田 裕次⁶、飯島 勝矢⁷
(1. 藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座、2. (株)フードケア 開発部、3. わかくさ竜間リハビリテーション病院 歯科、4. 大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科、5. 東京医科歯科大学医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野、6. 松本歯科大学総合歯科医学研究所、7. 東京大学高齢社会総合研究機構)

(Sat. Nov 7, 2020 2:00 PM - 2:40 PM D会場)

[SO4] カムカム健康プログラムー地域で取り組むフレイル・オーラルフレイル予防！ー

○松尾 浩一郎¹、泉 綾子²、小川 康一²、貴島 真佐子³、糸田 昌隆⁴、金澤 学⁵、増田 裕次⁶、飯島 勝矢⁷ (1. 藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座、2. (株) フードケア 開発部、3. わかくさ竜間リハビリテーション病院 歯科、4. 大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科、5. 東京医科歯科大学医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野、6. 松本歯科大学総合歯科医学研究所、7. 東京大学高齢社会総合研究機構)

【略歴】

1999年：

東京医科歯科大学歯学部 卒業

1999年：

同 大学院 高齢者歯科学分野 入局

2002年：

ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座 研究員

2005年：

ジョンスホプキンス大学医学部リハビリテーション講座 講師

2008年：

松本歯科大学障害者歯科学講座 准教授

2013年：

藤田保健衛生大学医学部歯科 教授

2018年：

藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座 教授（～現在）

栄養の入口である「口腔」の機能低下は、栄養障害や続発するフレイル、要介護の一因となりえる。オーラルフレイルや口腔機能低下症は、今後のフレイル予防、介護予防にとって、間違いなく必要不可欠なキーワードとなるであろう。口腔機能が低下すると、無意識に、硬い肉や魚、野菜の摂取を避け、食品摂取の多様性が低下し、栄養障害に陥りやすい状態となる。そのときに、栄養指導として、食べやすいように柔らかく調理したり、補助栄養を追加するのも栄養改善のために重要である。しかし、いったん柔らかい食物を食べ始めた高齢者は、徐々に噛まない食事へ移行していくのではないだろうか。フレイル予防のためには、運動や栄養に気をつけなければならない。一方で、栄養の入口である口の機能や咀嚼機能を維持することも不可欠である。機能が障害されてから回復させるのは大変である。普段から口の健康に気をつけながら、できるだけ噛むことを心がけて、噛みごたえのある食感のある食事をつくり、選ぶような、食事への心配りが大切であると考えます。

そこで、私たちは、咀嚼と栄養をコンセプトに、咀嚼を促す噛みごたえのある食感を付与したカムカム食品をコンセプト化した。カムカム食品を食べると、有意に咀嚼回数、総咀嚼活動量が有意に増加していたことから（Matsuo et al., 2019）、われわれはこの「カムカム弁当」を用いた「カムカム健康プログラム」を開発し、無作為化比較試験にて検証した。地域在住高齢者を対象に、週2回の体操教室参加とともに自宅で口腔エクササイズを週3回行うように指導した。また、12種類のカムカム弁当を用意し、週2回の体操の後に参加者全員でカムカム弁当を食べるように企画した。12週間の介入試験の結果、舌圧や舌口唇運動機能などの口腔機能と、体脂肪率やTime Up Go 時間が、介入群で有意に改善していた（Kito et al., 2019）。

この結果を受けて、第2フェーズとして、2020年より本プログラムが一般介護予防事業の現場で社会実装できるか検証している。現在、各地でフレイル予防の運動プログラムや栄養指導が行われている。これらの活動に、カムカム健康プログラムによる咀嚼、栄養、口腔機能のコンセプトをアドオンすることで、さらなるフレイル予防＋オーラルフレイル予防につながればと考えている。

(藤田医科大学 倫理審査委員会承認番号：HM17-182)

(COI：本発表は、科学技術振興機構戦略的国際共同研究プログラム（JST-SICORP）日本-スウェーデン（JPMJSC1813）による）